

# 第 10 回

## 佐世保市地域福祉計画推進委員会

### 議 事 要 旨

日時：平成31年2月7日（木）18：30～

場所：佐世保市中央保健福祉センター 6階研修室1

（出席委員）

西委員、榊原委員、林委員、嬉野委員、川内野委員、池田委員、森委員、川原委員、川原委員、川嶋委員、村山委員 [11名]

（欠席）

土井委員、杉本委員、迎委員

（事務局）

○佐世保市

保健福祉部長、保健福祉政策課、医療政策課、長寿社会課、障がい福祉課、生活福祉課、監査指導課、学校教育課、社会教育課、コミュニティ・協働推進課 各課員

○佐世保市社会福祉協議会

常務理事、事務局長、地域福祉課 課員

## ■開会

### ■会議成立の確認

## 1. 委員長あいさつ

## 2. 議事

### ■資料の確認

### ■情報公開の確認

### (1) 第3期佐世保市地域福祉計画・佐世保市地域福祉活動計画（素案）について

#### ■事務局（市：杉本）

##### 《①パブリックコメントの実施結果について》

[資料2：パブリックコメントの実施結果について]

- 平成30年12月27日より平成31年1月18日までパブリックコメントを実施し、受付人数2名（男性）、16件のご意見だった。
- 資料は、ご意見の原文です。
- 今計画に直接的に関係する部分を抜粋し説明する。No.4、「ふくし教育」の「学校教育者を巻き込んだ」の部分について、一過性なのか、定期的に実行するのか、誰が推進するのかとのご意見があった。教育現場は多忙ではないかとの指摘だった。  
これについては、今計画の重点プロジェクトの地域福祉教育プロジェクトに記載しているが、推進主体は社会福祉協議会及びふくし教育推進委員会であり、必要に応じて講師を派遣するなど、学校教育現場に負担がかからないプログラムを予定している。計画としては、5年間継続的に実施するという回答になる。
- No.5、「避難行動要支援者登録名簿」は作成済みだが、今後どのような支援をしていくとの質問であった。
- 警察や消防、民生委員ら避難支援関係者に名簿を配布し、災害時の避難支援、平常時からの見守り活動を可能な範囲で行っていくと

している。ただ、この制度の周知が十分でないと受け取れるご指摘であったので、今後、制度の周知に取り組んでいきたい。

- No.10、「事前に教育委員会との連携・相談をしたのか」については、学校教育課、社会教育課も含めて議論してきており、あわせて、学校現場からも参加しているふくし教育推進委員会でも対応していくという回答をしている。
- No.13、生活困窮者等について、ハローワーク、社会保険事務所などのつながりはどうなっているのか。支援員の資格取得の費用支援を検討してほしいとの意見であった。
- 現状は、必要に応じて関係機関が連携を図りながら社会福祉協議会で相談を実施しており、社会福祉協議会が実施しているスキルアップ研修会の中で、生活支援員などの支援強化に努めると明記している。ただし、現状では、資格取得の費用支援などの施策までは検討していない。今後は今の状況を継続していきたいと考えている。
- No.15、「福祉ケアの経験者の意見を聞く場を設けてほしい」との意見があった。  
重点プロジェクトとして「佐世保“地域福祉・生活支援ネットワーク”プロジェクト」を実施予定であり、このなかで、地域カフェ（座談会）など、福祉のケア経験者が参加する場の設置を推進したいと考えている。
- No.16、「地区自治協議会と福祉推進協議会の再編合流について、民生委員活動に弊害が生じないか」とのご意見があった。
- 再編合流については、3年間の期間を設け、関係機関・団体と協議し、弊害が生じないよう進めていきたい。
- 意見等は以上である。具体的に計画書の中身を変更する部分はなかったと整理している。

#### ◎西委員長

説明に対して質問はないか。

◎村山委員

社会福祉協議会に丸投げのように聞こえたが、今後、市と社会福祉協議会との関係はどのようになっているのか。

■事務局（市：杉本）

パブリックコメント自体は行政側で行っている。回答については社会福祉協議会とすり合わせをして作成した。ご意見の該当部分について、社会福祉協議会が実施する事業が多かったため、そのように受け止められる説明になったかと思う。今後も、市と社会福祉協議会は協力しながら実施していくもの。

■事務局（市：辻）

1月9日に市議会の文教厚生委員会に計画について説明した際に質問があり、主な内容を紹介させていただきたい。

1つ目は、活動計画を進めるにあたり、社会福祉協議会の体制は十分取れているのか、マンパワーは足りているのかとの質問があった。これに対して、社会福祉協議会とも協議をしており、毎年、この推進委員会で活動計画の評価を行う中で、マンパワー不足による事業の停滞はないという回答を行っている。併せて、長崎市の社会福祉協議会と比べても遜色ないという回答を行った。

2つ目は、市の最上位計画は総合計画であり、将来、総合計画と整合を図れなくなったらどうするのかという質問があった。これについては、必要な状況になれば推進委員会に諮り、見直しもあり得るという回答を行った。

3つ目は、県の財政支援についての記載がないという質問があった。確かに記載はないが、県には平成32年度までの福祉保健総合計画があり、その策定期間に合わせて、必要な要望をしていきたいという回答をしている。

4つ目は、高齢者の買い物難民、交通弱者の問題についても把握して計画に記載すべきではないかとの質問があった。それについては、計画の基本目標に「地域課題の把握解決のための仕組み

づくり」ということで、生活支援ネットワークの運用等も計画しており、今後の取組みの中で、地域課題としてあがってきた場合に、多分野連携による検討を考えていると回答を行った。

5つ目は、計画の中にカタカナ表記が時折見られ、分かりにくいとの指摘があった。これについては、注釈などで対応していくと回答を行った。

◎西委員長

次に、第9回の委員会後に委員から提出された意見に対する説明を事務局に願います。

■事務局（社協：富永）

《②委員ご意見に対する対応について》

[資料1：第3期佐世保市地域福祉計画・佐世保市地域福祉活動計画（案）]

[資料3：地域福祉計画推進委員会 委員ご意見に対する対応について]

○ 11 ページ、「4. 計画の期間」について、元号が変わることが明らかなことから意見があり、「2019年度（平成31年度）から2023年度」と修正した。

○ 48 ページ、「(1) 地域福祉を推進する組織の基盤強化と活動支援」の社会福祉協議会の主な取組みのところで、「ブロック別研修会」がどういう単位で行うのか分かりにくいとの意見があったため、「研修会の開催（複数のブロックに分けて開催）」との表記に変更した。

あわせて、【達成目標・年次計画】についても、「研修会開催回数（ブロック毎）」と表記にした。今後、福祉推進協会と地区自治協議会との再編合流があり、ブロックの見直し等も必要となるため「ブロック毎」との表記で対応したい。

○ 51 ページ、「(1) 福祉サービス利用者の選択に役立つ情報提供」の達成目標が、年100件は少ないのではないかとの意見があった。

○ これまでの実績と照合した結果、記載どおり

の達成目標を了解してもらいたい。

また、ホームページで更新したことが分かるようにお知らせしてはどうかとの意見については早速対応し、目標達成につなげていきたい。

- 54 ページ、「(1) ふれあいいいききサロンの推進」と、55 ページ、「(2) 食を通じた地域活動の支援」の【達成目標・年次計画】でカッコ内に記載したカ所数が分かりにくいとの意見があったため、「(開催カ所数)」と記載を追加した。
- 56、57 ページ、「2 ボランティア・市民活動の推進」で、これまでのボランティア活動依頼件数の実績について、計画期間の1年前からの活動依頼件数と登録者数の推移（実績）を「別紙資料3」に記載している。  
ボランティア活動依頼件数は、「ボランティア活動者を紹介してほしい」という相談件数で、相談に応じて適切な個人ボランティアやグループとのマッチングを行っている。3期計画でも、依頼件数の増加に対応できるような活動希望者の養成に取り組みたい。
- あわせて、ボランティア活動希望者数とボランティア入門講座との関連を示してほしいとの要望を受けたので、説明を記載している。
- ボランティア活動に関し、【達成目標・年次計画】では、ボランティア活動希望登録者を毎年度25名増やす計画としていたが、毎年度、登録抹消が約30名いる。  
よって目標数を達成するには新たに55名を新規に登録希望者とする必要がある。
- 57 ページ、【達成目標・年次計画】のボランティア入門講座修了者数の目標を毎年40人としている。受講者の半数は既に登録済みで、登録後に受講する人であるが、新規登録につながる20人を入門講座で養成して、活動につなげていきたい。

#### ■事務局（市：杉本）

- 5 ページ、「(2) 市の政策全体から見た地域

福祉の領域」について、「地域コミュニティの活動領域とその要素」の内容ですが、地域のみで対応可能な取組みに活動例として記載していた「地域防犯パトロール」は、警察や行政と共にやっていくものではないかと指摘があったため、活動例を修正した。

- 30 ページ、「(4) 部会の主な検討内容」の「多機関との協働」について、例示であれば、大学などの教育機関という言葉を入れてほしいとの意見があったが、部会議事から引用した内容を記載しているものであるため、再度、事務局にて議事録を聞き、差異ない範囲で「(大学など教育機関との協働による学生へのPR等)」に変更した。
- 45 ページ、「(1) 地域の課題を把握する体制づくり」に「地域の課題を把握していくためには、相談窓口を設けるだけでなく」との記載をしているが、「町内会」を明記すべきとの意見があった。しかし、この施策では、相談できる体制づくりとして、関係機関・団体等、町内会等と身近に相談できる体制づくりを広く推進していく事業と、民生委員・児童委員への活動支援の2本立ての事業内容となるため、町内会に特化した記載はせず、「各種関係機関・団体等」に包含する方法を進めたい。
- 38 ページ、「(2) 計画を推進するための役割」について、女性や若者など多様な方々が参加できるような記載をと意見があった。ただ、町内会やボランティアなどに参加している女性は既に多く、若者への参加呼びかけという方向で「世代を問わず」という言葉を追記している。

#### ■質疑

##### ◎西委員長

事務局より修正の説明があった。意見をお願いしたい。

◎川嶋委員

ボランティア関係で、57 ページに「ボランティア活動希望者にはボランティアに関する情報をメールやホームページ等を活用して迅速に提供します」とあるので、ボランティアが増えてくるケースがあるのではないかと感じ、目標の数的に少ないのではないかと思った。

今後のホームページの作り方、メール発信で状況が変わってくるのかどうか、考えを聞かせてほしい。

■事務局（社協：富永）

ボランティア活動に関する情報発信は、ボランティアセンターのホームページにボランティアに関するタイムリーな情報を掲載できていないのが現状であった。昨年 10 月にホームページの見直しを行い、情報を随時アップできるような形にした。

また、さまざまな研修会についても検索できるようにした。今後も見やすいホームページ作りと、メール等を使った取組みを行う中で、ボランティア数が増えるよう努めたい。

数値目標としては、過去の推移を参考にしておりご理解いただきたい。今後、より高い実績づくりに努めたい。

◎川原ゆ委員

長崎短大では、募集があればボランティアに行きたいとの学生がたくさんいる。教員も養成講座の講師になれる資質があるかもしれない人がいる。相談があれば、社会貢献していきたいので、大学をもっと活用してほしいと思う。

■事務局（市：杉本）

- 事務局で変更した部分について、説明したい。
- 44 ページ、【基本目標 1 重点プロジェクトイメージ】で、以前は矢印が相互にかかっていた、「連携」「情報共有」という言葉で終わっていたが、どういう流れで課題の解決に向かっていくのかが分かりづらかった。
- 流れとしては、各地域で地域福祉活動計画を

実践しており、随時進めていく中で、地域では解決できない課題や地域ニーズを、地域福祉・生活支援ネットワークに共有させていく。その中で、多職種が連携し、解決できる課題については解決策を検討し、そこで検討した課題解決策をそれぞれの地域にフィードバックし、地域活動を充実させていくという入り口から出口までの流れを明記した。

- 地域だけでは解決できない課題は、地域包括庁内推進会議で市の庁内連携会議を開き、その中で解決策、事業の実施を行うという記載の変更をした。

◎西委員長

全体含め何か意見等はあるか。

◎林委員

民生委員は課題を把握するためにあるのか、疑問である。地域福祉といっても、困った人たちのために動くのであって、実情は把握するが、課題を問題提起するとなると、仕事に精いっぱいなので、過大な期待はしてもらおうと困るのが本音である。

◎西委員長

意見として承っておく。

◎西委員長

次に、計画の答申について事務局から説明をお願いしたい。

■事務局（市：杉本）

《③答申について》

- 本年度、計画策定について委員会に諮問し、本日まで議論していただいた内容で案を作り、市へ答申していただく流れとなっている。委員の皆様にお諮りしていただければと思う。

◎西委員長

事務局から説明があった第3期計画(案)について、修正が不要の場合、このまま答申する。

修正が必要な場合は、本日の議論を踏まえて、私と事務局で修正し答申を進めていきたい。委員の皆様よろしいか。修正が必要な部分はないか。

◎林委員

平成を西暦に直すのであれば、計画(案)表ページがまだ「平成31年」になっているので、西暦にするべきではないか。

■事務局(市：杉本)

法律上5月まで平成なので、それまでに出すものは平成表記とさせていただきたいと思う。

ただ、未来の部分を書くところは、西暦で表記したい。ご理解をお願いしたい。

◎林委員

理解できない。西暦があるのに、平成を残す必要があるのか。

■事務局(市：杉本)

併記、または修正する形で対応したい。

◎川原ゆ委員

佐世保市総合計画の委員、子ども・子育て会議と合わせて3つの委員を務めているが、庁内会議で、それぞれの計画に縦串を入れるために、議論はしたのか。それぞれの関連性がよく分からない。

■事務局(市：田中)

分野別計画を作っていく上で、最上位計画である総合計画と整合性を図りながら作業を進めている。今回の法改正により、地域福祉計画が福祉分野での最上位計画と位置付けられ、計画改定時には、それぞれの整合、関連性を考慮して計画を作っていくので、横串は一本通ったものとして、計画を作っている。

◎川原ゆ委員

計画実施に伴う予算は、関係各課がそれぞれ事業を計画し、要求していくのか。

■事務局(市：田中)

その通りである。

◎西委員長

他に意見はないか。

本日の議論の内容で答申をしたいが、よろしいか。

◎委員一同

異議なし。

■事務局(市：田中)

答申は、本日頂いた意見等を踏まえ内容を整理し、委員長に最終確認をお願いしたい。答申は事務局と委員長で、2月14日16時半より行う予定で調整したいと考えている。

### 3. その他

■事務局(市：杉本)

委員の委嘱期間が平成31年3月31日で満了になる。来年度からの新たな委員構成は、新しい計画を進めるにあたり、推薦団体等と話しながら、推薦を依頼したいと考えている。近日中には連絡する予定である。今後ご協力をお願いしたい。

◎西委員長

ただ今の説明についてご質問、ご意見はあるか。

■事務局(市：塚元部長)

今年度は、第3期計画策定にあたり、5回の委員会、3回の各部会が開催され、密度の濃い年だった。

また、策定にあたり6名の委員に新たに加わっていただき、幅広い知見によって充実した内容になったと感じている。あらためて深く感謝を申し上げたい。

第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画に基づく事業を着実に実施し、地域福祉の一層の推進を図っていきたいと考えている。

◎西委員長

第3期計画は、より具体的に実効性のある計画になったと思う。

今、最も問われているのは、子どもの問題も含めて、地域活力をどうするかということである。

地域福祉の重要性が、今後ますます高まっていく中で、委員会は今後も進行管理を行い、進捗状況の把握を進め、いろいろと意見を述べる場となる。

この委員会活動が、市の地域福祉の発展につながることを願っている。

以上で、第10回の委員会を終了する。

■ 閉 会